

孫悟空 天宮で大暴れ

二幕五場



第一場



花果山
かかさん



長い修行を経て72種の神通力を身につけた孫悟空は、この花果山を仕切って王様のように暮らしていました。孫悟空の悪戯ぶりが天に聞こえ、天の玉帝は孫悟空をだまして天へ来させて懲らしめようとしています。

第二場



御馬監で大暴れ
ぎよばかん



玉帝は孫悟空に木っ端役人の官職を与えて天に留まるように仕向けます。でも、孫悟空は木っ端役人では満足しません。

孫悟空役 ◆ 程和平 [国家一級俳優]

基礎がしっかりとしていて、声が伸びやかで明瞭、動作に安定感があり、のびのびとした芸風を持つ。文戯も武戯も思いのままに演じられる。《伐子都》で主演し、第一回全国青年京劇俳優テレビ大賞優秀演技賞を受賞。《十八羅漢 大鵬を征伐する》の主演では、第二回全国中青年京劇俳優テレビ大賞の中年の部演技賞を受賞。また、第二回全国梅蘭芳金賞大コンクールで、圧倒的実力でノミネート賞(銀賞)を受賞するなど大規模の大会での受賞多数。



ものがたり

日本でもよく知られる孫悟空のお話は、五行山の下敷きになった悟空を三蔵が救ったことから、悟空が旅のお供をするというシーンからはじまりますが、何故、孫悟空は五行山の下敷きにされてしまったのでしょうか。よほどの悪戯をしたに違いありません。このお芝居は、三蔵法師と出会う前の孫悟空の悪戯ぶりが随所にちりばめられた、京劇ならではの話を集めた通し狂言になっています。

第三場



瑶池で大暴れ
ようち



仕方なく玉帝は、お供をつけて天の大事な桃を管理する役職につけます。しかし孫悟空は「蟠桃宴(ばんとうえん)」という天の宴に招待されていないことに腹を立ててしまいます。

第四場



天宮で大暴れ
てんきゅう



孫悟空の余りのわがままに怒った玉帝は孫悟空を捕えるよう命じます。

第五場



羅漢と闘う
らかん



孫悟空を捕まえて火炉の中に投じて焼き殺そうとしますが、悟空の神通力には歯が立たずとうとう如来仏に助けを求めて羅漢までが悟空征伐にのりだします。

京劇の面白さ ◆ 渡辺 保
Tiamotsu Watanabe

京劇と聞くとワクワクする。昭和三十一年五月三十日、名女優梅蘭芳を団長に京劇の大一座が歌舞伎座に来たときの、興奮を思い出すからである。

……中略……

私はその後何度も京劇を見た。もうあのときのような感動はなかつたが、あのときの大一座の名優の一人袁世海が池袋の芸術劇場で演じた「三国志」の曹操の名演技と、国立劇場で見た「孫悟空」が忘れられない。

……中略……

よく「京劇と歌舞伎は似ているでしょう」といわれるが私はそうは思わない。「三岔口」をあれは歌舞伎のだんまりだといった人がいるが、私はずいぶん違うと思う。にもかかわらず日本人の身体の内底には長い歴史の培った中国人と共通の感覚がある。誤解を恐れずにいえば、それは「ふるさと」のような感触である。

二十世紀は西欧合理主義が世界を席巻した。しかし二十一世紀は、この身体表現のような表現の多様性が、もう一度見なおされるだろう。アジアの方法論が、西欧合理主義の隘路を切り開く瞬間がくるに違いない。